

寸言

株式会社アイ・シー・エス
代表取締役社長
古屋 勝仁



まじめなものづくりと言う先端技術

この度入会させていただきました株式会社アイ・シー・エスの古屋でございます。弊社は、金属熱処理、ろう付け、溶射、PVDコーティングなどの特殊工程を主業務とする社員120名程度のコンパクトでまとまりのある会社です。36年の社歴の中で航空機部品の加工（熱処理、ろう付け）に関わり、早29年が過ぎましたが、業界においては一部を除いて認識は余りされていないのが実情です。

『目立つことなくただひたすら黒子の役目に徹する』から一歩踏み込み、航空宇宙工業会の皆様方にICSを広く知っていただき、お役に立ちたく入会しました。

主業務の特殊工程の定義は「結果として得られる製品の適合が容易に又は経済的に検証できないプロセス」と言うことになっています。言い換えれば加工終了後の検査では判断が難しい為、工程で保証することが重要となります。

ICSは創業時(現 新川会長)計測機器の設計・販売・保守点検及び熱計測機器の販売・トレーサビリティを主体として事業を発展させた実績を生かし、熱処理設備の管理をMIL-H-6875にて行い、F-15、P3Cの受注に結びつけ、熱処理の事業を発展させました。

その後、航空機部品の熱処理設備管理で培わ

れた品質が認められ、自動車部品、電気電子部品、半導体、プラントなど、幅広い分野から受注が増大しました。特に近年PVDコーティングの中でもDLCは自己潤滑性を持つという特徴から自動車技術の最高峰F1のエンジン部品やギアなどに数多く採用され、モータースポーツ技術発展の黒子として貢献してまいりました。また、その他の薄膜コーティング CrN、TiN、TiAlNなども幅広い業界で利用されています。

日本の航空宇宙業界でも海外と同様にDLCを初めとした薄膜コーティングを幅広く検討採用していただければと願っています。

ICSの専門分野が広がることにより、航空宇宙分野の売上は10%に届かない程度になりましたが、非常に大きい位置づけであることに変わりありません。

認証取得状況としては、MIL、AMS規格を初めとしISO9001、JIS Q 9100、NADCAPなど客先のニーズにより維持管理しており、更に航空宇宙メーカー各社の規格適合能力も備えております。

『決められたことをまじめに実践する』ICSの取り組みが少しでも日本の航空宇宙分野に貢献できますように努力してまいります。皆様、今後とも宜しくお願い申し上げます。